

地域発・防災ラジオドラマ
グループ名「The 防災具」
タイトル 「シロの微笑み」

防災ラジオドラマグループ紹介

代表：栗原正文

脚本：金子雅之

演出：葉山 卓

サウンドプロデューサー：石母田祐一

消防団員

挿入歌「手をつなごう」

作詞、作曲、歌：西 和也

編曲：古澤利休

製作スタッフ及び配役

栗原正文

葉山 卓

高瀬伸一

金子健一郎

金子玄希

石母田祐一

金子みすず

古賀 徹

相浦やよい

栗原団員

葉山団員

高瀬班長

金子団員（金子玄希君の父親）

元気君

石母田部長

母親 元気君の心の声

ナレーション

パーソナリティー

消防団員

消防団員

消防団員

消防団員

消防団員

FM局スタッフの声

パーソナリティーの語りからはじまる。ラジオから聞こえるような音から実際の声に移行

相浦：「83.7MHz。エフエム戸塚、東戸塚駅西ロスタジオからお送りしています。」

メールの内容を読む 「さてここでメールを紹介します」

「やよいさん、元気ですか？いつもエフエム戸塚のブログを見
ています。学校はもうすぐ中間試験です。昨日の雨であの日の
ことを思い出しました」
「・・・あれから1年が経つんだなあ」

回想に入る

出動命令の電話

「トウルルル・・・」

電話の呼び出し音

高瀬班長：「はい、高瀬です。え？・・・わかりました。すぐに向かいます」

受話器の音

ナレーション

猛威を振るう台風18号は秋雨前線を刺激しながら、神奈川県を直撃する様相をみせ各所で地盤のゆるんだ急傾斜地が崩れを起こしていました。この災害に消防署だけでは対応しきれず多くの地域で消防団が召集されました。

場面が切り替わる（スタジオ内）

ジングル「83.7MHz。エフエム戸塚」

FM局内のパーソナリティーの様子。

番組が終わってスタッフと挨拶を交わす相浦

相浦：「あ・・・お疲れ様あゝ・・・」

スタッフ一同：「おつかれさまあゝ」

「外すごいねえゝ・・・みんな気をつけて帰ってね」

スタッフ一同：「やよいさんも早く帰ったほうがいいよあゝ」

助けを求める母親の電話

電話の音「トウルルル・・・」

呼び出し音

電話の向こうの声

慌てて震えるような声の元気君の母親。母親を落ち着かせるようにパーソナリティーが対応する。

相浦：「はいFM戸塚です」

母親：「もしもし相浦さんですか？」

「この間の企画で取材をしていただいた舞岡の矢沢と申します
が・・・」

相浦：「矢沢さん。どういたしましたか？」

母親：「実は耳の聞こえない息子が家に一人でいるんです。私は電車が止まっていて家に帰れなくて・・・」

「お願いです、消防署にも警察にも連絡したんですが、なんとか元気を助ける方法はないでしょうか?!」

相浦：「わかりました矢沢さん、何か方法はないか上司と相談してみます」

泣きそうな声で

母親：「よろしくおねがいします」

相浦：「石母田部長お話しがあります」

石母田部長：「どうした？」

ナレーション

その母親は舞岡町内会の役員の一人で、以前、地域のイベントでFM戸塚の取材を受けたことのある方でした。パーソナリティーは石母田部長のところに歩み寄り放送を通じて元気君を救う方法を提案します。

相浦：「急がないと人命に関わるかもしれないんです。お願いします。放送させてください。私が責任をとります・・・お願いします」

石母田部長：「だめだ！そんな未確認情報流せるわけじゃないじゃないか！」

相浦：ひとり言のように

「どうしよう・・・そうだ！」

ナレーション

パーソナリティーは番組を通じて知り合った消防団長に電話して事態を説明しました

そして元気君の情報は団長、分団長、各班長へと伝えられました

元気君の住む家は周囲を山で囲まれ、袋小路になった土地の一番奥まったところにあります

そこに通ぶる道路は狭く、土砂で埋もれば孤立することになります

広報車によって避難勧告がされていたのでその地域にはすでに誰もいませんでした

元気君はそんな中、一人家の中でシロに話しかけていました・・・。

元気君の心の中の声

元気君：「大丈夫だぞ僕がついているからな」

「いつも留守番してる時にお前が僕をばげましてくれてたもんなあ」

「いつだって一緒だよシロ、学校の帰り道でシロと初めて会った時からずっとずっと一緒だよ・・・シロ・・・」

ナレーション

一方、連絡を受けて消防車でかけつけた消防団員は、現場を見て驚きます。

消防車から降りる4班の団員

サイレンの音

栗原団長：「なんだこれ！班長！道路が土砂で埋まっています」

車のドアを閉める音

高瀬班長：「崩れたのが小規模でよかった・・・ここは袋小路だからなあ・・・」

大雨の音

葉山団員：「道が川になってるぞ！」

激しく水が流れる音

栗原団員：「ロープを張ってくれ！まだ山は大丈夫だ。」

高瀬班長：「なんだ？あの笛のような音は？」

ホイッスルの音

金子団員：「聾啞者の人が非常時に鳴らすホイッスルです！元気君が吹いてるんです！」

栗原団員：「待ってるよ元気君！今行くぞ！」

金子団員：「家はどこだ？」

ぬかるみを歩く音

葉山団員：「金子！あそこの明かりのついてる家だ！」

金子団員：「たった三十メートルなのに・・・これじゃ進めない・・・」

金子団員：「葉山慌てるな！」

土砂の中を歩く音

栗原団員：「ドアが土砂で開かない！」

高瀬班長：「かまわん蹴破れ！」

ドアを蹴破る音

葉山団員：「元気君を探すんだ！ホイッスルはどの部屋からだあ！！？」

部屋のドアを開ける音

金子団員：「見つけたぞお！！！」

そして家の中でうずくまっている元気君を発見する
唇を読んでもらうためにゆっくりと発音する

金子団員：「もうだいじょうぶだぞ・・あんしんしろ」

葉山団員：「おじさんたちと一緒に行こうね」

ナレーション

このような災害のあった場合普通現場を見て聞いて状況を判断しますが、耳の不自由な方にとって、聞こえないということは一層の恐怖でしょう。まして一人で家に居ることはとても不安です

もしも補聴器が濡れてしまったり壊れてしまえば全く音がきこえなくなってしまうという心配から外に出ることは出来ないでしょう。こんな時に聾啞者が非常時に鳴らすホイッスルは頼みの綱となるのです。

家の中で一人震える元気君にとって肩を抱いてくれた消防団員は救世主でした
そして元気君を外に連れ出したその時・・

各員のマイク位置をずらし遠近感を出す

栗原団員：「急げえ！！山が崩れる！」

葉山団員：「まだ中に犬があ！・・・」

高瀬班長：「だめだ！早く外に出ろ！」

「いそげえ！！！」

慌てて外に飛び出す団員達

栗原団員：「早くそこを離れるんだあ！！！」

金子団員：「崩れてきたぞお！！」

葉山団員：「間に合ってくれえ〜……」

なんとか安全な場所に退避した後、山が轟音とともにくずれて家を飲み込む

がけ崩れの轟音

シロ：「キヤイイイ〜ン！」

犬の悲鳴

回想終了

スタジオのパーソナリティーの語りに戻る
ここで初めてそのメールが元気君のものだと明かす

相浦：曲挿入

曲

「メールは舞岡の元気君からでした。あれから1年。あの時は大変だったね。みんなのやさしさがバトンとなってあの嵐を乗り越えたんだよね。キーワードが絆であることを思い出させてくれたのは元気君です。ありがとう。またスタジオに遊びに来てね。私今、手話を勉強しているんだ！ではここで1曲、バトンをつないでくれた大好きなみんなに贈ります。」

曲をフェードアウトしながら雑踏の雰囲気をフェードイン

商店街の雑踏の音

雑踏の中から浮かび上がる八百高の声

八百高（班長）：「さあ〜！いらっしやい、いらっしやあ〜い！ダイコンいかがですかあ〜」

突然目の前に現れる元気君、驚いた様子で八百高が声をかける

八百高（班長）：「おお！元気君、どうだ！ベンきょうがんばってるか？」

実際の聾啞者の話し方（玄希君の実際の声）

元気君：「おじさん、あの時はありがとうございました」

八百高（班長）：「おお！いいってことよ！」

「ええ！！腹減ったってえ？」「ヨッシ！お前にやこれだ！・・・」

「え？ピーマンは食えない？ そりやそうだわなあ！！ハツハツハ」

シロ：「クウーン、ワン！！」

機嫌のいい犬の声